

We フォーラム 2012 in 福島

来て、感じて、
伝えてほしい・・・
放射能汚染の中で
生きのびるために

福島第一原発の事故から一年あまり、
いのちを守るための方策も補償の話も進まないまま、
故郷を離れるのか、その地にとどまるのか、
汚染地域の住民がづらい選択を個々人の責任で
迫られ、分断されるような状況が続いています。

この状況を変えるために、微力でも自分たちが
できることをしたいと思っている人たちや
福島の人たちがつどい、情報交換し、
話しあえる場を作りたいと、
この夏、We フォーラムを開催します。

ゆるやかにつながりあって
知恵を出しあい、ささえあうことで
共に生きていきたいという希望をもって。

放射能からの避難について様々なお考えや
生活する環境の違いがあることを踏まえて、
それぞれの立場を尊重しながら互いに学びあう
場にしたいと考えています。

●日時：2012年 8月 4日(土)～ 5日(日)

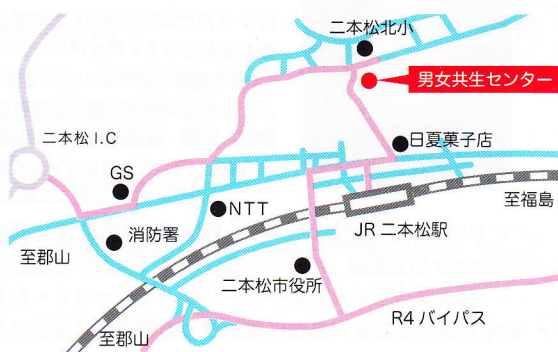
●会場：福島県男女共生センター「女と男の未来館」

〒964-0904 福島県二本松市郭内 1-196-1 Tel.0243-23-8301 Fax 0243-23-8312
JR 東北本線「二本松」駅より徒歩 12 分 / 東北自動車道二本松 I C より車で 5 分

- 参加費：全体会、分科会 各 1,000 円（福島の方、学生 500 円）
- 申込方法：裏面をご覧ください。
- お問い合わせ：We フォーラム実行委員会事務局（フェミックス内）
TEL 045-482-6711 FAX 045-482-6712
E-mail：we2012@femix.co.jp

※申し込み時に提供された個人情報は、本事業の実施のみに利用し、そのほかの目的で利用することはありません。

主催：We フォーラム実行委員会・We の会・フェミックス
後援：福島県社会福祉協議会（申請中）



8月4日(土) 午後1:30~4:30 (受付1:00~)

全体会・シンポジウム

福島で生きるということ

「私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島の地にとどまり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支えあって生きていこうと思っています。私たちとつながってください。」

—— 昨年9月の「さようなら原発5万人集会」のスピーチで共感の輪を広げた武藤類子さんは、住民や避難者の人権と健康を守る活動を続けています。

「福島が放射能で汚染された状態が続くなら、5年でも、10年でも、30年でも、期限を切らずに、もとの状態になるまでその間は動けるように選択の権利とゆとりがほしい。」

—— 家族を避難させた後、福島にとどまって、子どもの避難・保養のプロジェクトに取り組む吉野裕之さん。今年の2月には、福島で保養・避難の相談会（放射能からいのちを守る全国サミット）の開催にもかかりました。

福島で生きるということをみつめてこられたお二人に、今感じていらっしゃることを、これから何が必要とされているのかを語っていただき、その話をうけて会場みなさんと共に、「自分たちにできることはなにか」を考え、それぞれの場で一歩を踏み出す足がかりにしたいと思います。

会場：第2研修室ホールA・B

参加費：1,000円（福島の方、学生 500円） 定員：100人

お話：武藤類子さん／吉野裕之さん

コーディネーター：白崎一裕さん

（ベーシックインカム・実現を促す会・栃木県那須地区在住）



武藤類子（むとう・るいこ）さん

1953年、福島生まれ。福島県三春町在住。

チェルノブイリ原発事故をきっかけに脱原発の運動にかかわる。

原発に依存しない暮らしを考えたいと、長年養護教員として勤めた学校を辞めたのを機に

「里山喫茶燦」をオープン。「ハイロアクション福島原発40年実行委員会」で、

福島第一原発1号機が稼働40年になる2011年3月から1年間のアクションを準備していた。

その矢先に事故が起こり、「燦」も閉店を余儀なくされた。

*「We」176号でロングインタビュー掲載。



吉野裕之（よしの・ひろゆき）さん

1966年、福島生まれ。福島市在住。

昨年4月に文科省が出した年間20ミリシーベルトまで子どもの被ばくを容認するという通知に、

県も国も守ってくれない、自分たちで動くしかない、"子どもたちを放射能から守る"の一点で集まった

「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク（子ども福島）」に参加。

子どもたちの被ばく最小化の取り組みを国や自治体、東京電力などに働きかけている。

避難・疎開・保養班の世話人を務め、子どもたちを少しでも外に出す機会をつくれなからと試行錯誤を続ける。

*「We」177号でロングインタビュー掲載。



<交流会> 5:00~6:00 全体会終了後、同じ会場で参加者の交流会を予定しています。

柚木ミサトさんと「あかいつぶつぷの絵」:

あかいつぶつぷは、放射能を表しています。画家の柚木ミサトさんによって描かれた「あかいつぶつぷの絵」は、多くの「放射能から子どもたちを守る活動」に活かされています。坂内智之さん著作『放射線になんか、まけないぞ!』のわかりやすいイラストも柚木ミサトさんの手によるものです。

8月5日(日) 午前9:30 ~ 12:00 (受付9:00 ~)

参加費:1,000円(福島の方、学生 500円)

分科会
1

いま、いのちを守るために(保養・避難)

講師: FoE Japan (国際環境 NGO)
 沖縄・球美の里いわき事務局 (予定)
 会場: 4F・第2研修室ホールA 定員: 60人

線量の高い地区の地域住民を支援し、行政に「避難の権利」を求めるとともに、土湯温泉での親子短期保養プログラムの試みをしてきた FoE Japan (国際環境 NGO)、チェルノブイリの保養所をモデルに久米島での長期保養を企画している沖縄・球美の里事務局(予定)、福島の方などの報告を受け、いま被ばくから身を守るために何ができるのかを話しあいます。

分科会
2

米の放射能汚染ゼロへの挑戦
 天栄村の安全でおいしい米づくり

講師: 吉成邦市さん(天栄米栽培研究会)
 会場: 5F・第5研修室 定員: 32人



福島県天栄村では5年前に米づくり日本一を目指して「天栄米栽培研究会」を立ち上げ、3年間連続で全国コンクールの金賞受賞者を出していました。原発事故に見舞われ、作付を断念せざるをえないかと思われた状況の中で、事務局長の吉成邦市さんは仲間と共に放射性物質を土壌から作物に移行させない研究に取り組み、カリウム、ゼオライト、ブルシアンブルーなどを用いて、セシウムゼロのお米の収穫にこぎつけます。2011年12月にNHKのETV特集で放映され反響を呼んだ取り組みです。

分科会
3

放射線の授業をつくる

講師: 坂内智之さん(『放射線になんか、まけないぞ!』著者、郡山市立小学校教員)
 会場: 4F・第2研修室ホールB 定員: 50人



文科省が放射線の授業用に作成した副読本への批判が高まっています。では、学校は放射線の授業をどのように進めたらよいのでしょうか。この分科会では、福島県郡山市の小学校で放射線の授業に取り組む坂内智之さんに、授業の様子、子どもたちや学校の現状を話していただきます。横浜での授業実践の報告もあります。子どもたちに放射線をどう教えていくのか、学校は放射線とどう向き合うのか、参加するみなさんで考え、話し合しましょう。

分科会
4

被災地で深刻化する高齢者の認知症 — 今だから寄り添って癒しと笑いで生きる力を取り戻そう!

講師: 高林実結樹さん(NPO 法人認知症予防ネット)
 会場: 4F・第3研修室 定員: 50人



認知症予防の第一は楽しいことです。認知症を発症した人は「楽しい」思いから遠ざかり、笑いを忘れたつらい毎日を送っておられます。その人達がトキメクような「楽しい」時間を取りもどし、「優しさのシャワー」の中で「自分は見捨てられていない」と感じられるとき、認知症からの引き戻しが可能になります。「認知症予防・ケアゲーム」のルールは簡単で、何より楽しく、自然に笑いが溢れます。手指や体を使って脳の種々の分野を同時に使うので脳が活性化し、やる気が出て希望が生まれます。ひととき笑って一歩、また一歩進みましょう。

分科会
5

若者の視点でみた「ふくしま」

ゲスト: 大内裕和さん(中京大学)
 佐藤あゆみさん(岩手大学3年)、橋本葵さん(福島大学3年)
 会場: 4F・第4研修室 定員: 25人

若者の急激な貧困化の背景や構造について大内さん、岩手と福島の大学で学ぶ佐藤さんと橋本さんに現状をお話いただきます。3人の報告を踏まえ、「ふくしま」とそうでない地域にくら若者はどのようにつながることができるのか…などについて参加した人たちと話を深めていきたいと思います。

8月5日(日) 午後 オプションルツアー

- 天栄村を訪ねて…
 米の放射能汚染ゼロに取り組んだ天栄村を見学し、生産者の方からお話をうかがいます。
- 福島県立美術館を訪ねて…
 第五福竜丸をテーマにしたベン・シャーン「ラッキードラゴン」がある福島県立美術館。昨年の夏休みには、線量の少ない館内を開放してワークショップ・シリーズを企画されていました。所蔵作品を鑑賞し、美術館の取り組みについてお話を聞く予定です。(交渉中)

要予約

* 交通費などは実費負担です。

プログラム

● 8月4日(土) 午後1:30～4:30

全体会・シンポジウム
福島で生きるとのこと

お話:

武藤類子さん (ヒロアクション、福島県三春町在住)
吉野裕之さん (子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク避難・疎開・保養班 世話人、福島市在住)
コーディネーター: 白崎一裕さん
(ベーシックインカム・実現を探る会、栃木県那須地区在住)

会場: 4F・第2研修室ホールA・B
参加費: 1,000円(福島の方、学生 500円)
定員: 100人

● 5:00～6:00 交流会
全体会終了後、同じ会場で参加者の交流会を予定しています。

● 8月5日(日) 午前9:30～12:00

分科会
参加費: 1,000円(福島の方、学生 500円)

分科会1: いま、いのちを守るために(保養・避難)

分科会2: 米の放射能汚染ゼロへの挑戦
天栄村の安全でおいしい米づくり

分科会3: 放射線の授業をつくる

分科会4: 被災地で深刻化する高齢者の認知症
今だから寄り添って癒しと笑いで
生きる力を取り戻そう!

分科会5: 若者の視点でみた「ふくしま」

● 8月5日(日) 午後 オプションツアー(要予約)

【フォーラム参加申込み方法】

メール、電話、ファックスのいずれかで、(①お名前 ②参加ご希望の全体会/分科会/オプションツアー ③ご連絡先)を
実行委員会事務局あてお知らせください。(参加費は、当日会場でお支払いください。)

E-mail: we2012@femix.co.jp TEL 045-482-6711 FAX 045-482-6712

※ご予約による参加を優先します。 ※当日参加も可能ですが、準備の都合上なるべく事前にお申し込みください。

※宿泊については、お問い合わせください。

※関西から参加者向けツアーバス(京都-会場/往復15,000円)を運行予定です。

詳しくは6月20日頃以降フェミックスの「みんなのブログ」(<http://femixwe.blog10.fc2.com/>)でお知らせします。

※ 福島とつながりのある方、広報や当日の運営に力を貸していただける方は、
ぜひ実行委員会へご連絡ください。【実行委員会 we2012@femix.co.jp】

We フォーラムは、

We フォーラムは雑誌『くらしと教育をつなぐ We』の読者を中心に企画・開催し、この夏で31回目になります。
今回は福島出身の読者の「福島の人たちとつながりたい、語りあいたい」という思いをうけて福島での開催を決めました。

※ We フォーラムの準備状況については、フェミックスの「みんなのブログ」で随時お知らせしていきます。

<http://femixwe.blog10.fc2.com/>

『くらしと教育をつなぐ We』は、

「ひとりひとりが大事にされ、安心して暮らせる社会」の実現をめざし、知恵や情報の交換、
ネットワーク作りができる場として毎号さまざまなテーマを取り上げています。

昨年の震災以降は毎号、被災地支援や脱原発の特集を組んできました。

定価: 800円(税込み)

年間購読料: 5,000円(隔月刊/税・送料込み)

申込先: フェミックス <http://femix.co.jp/> TEL 045-482-6711 FAX 045-482-6712 jimu@femix.co.jp

※このリーフレットは「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度の枠組を活用した国交省地域づくり支援事業」の補助を受けて作成しています。

